



## 富士総合火力演習前の特科部隊研修



東京地本（本部長 荒井正芳 陸将補）は八月十五日、一七日及び一八日の三日間、東京に所在する大学の学生等を中心とした百二十名余りを、東富士演習場等に引率して富士総合火力演習に参加する特科教導隊の研修を実施した。

この事業は新たな募集基盤の確立を図るための一つとして、昨年度実施した内容を充実させたものであり、富士総合火力演習を表側と裏側の双方から見学させることで募集対象者や学校関係者等が自衛隊の任務等の重要性を認識してもらうことを主な目的としている。

当日早朝、マイクロバスでグラウンドヒル市ヶ谷等から一路東富士演習場に向けて出発し、演習場近くからは特科教導隊広報班の支援のもと、先ずは、十数門の155mm榴弾砲（FH70）が配置された特科陣地へ移動して火砲の数メートル後方から実弾射撃訓練を研修し、参加者は発射時の爆音・爆風に驚愕した様子であった。

その後、観測中隊の気象班、レーダ小隊の陣地等を見学し、弾丸の観測、気象の観測、それぞれの仕事の概要等について説明を受けた。

見学後は、参加者から説明隊員に対し積極的に質問がされ、予定時間を大幅に上回る活発な見学となった。

演習場での見学後、富士駐屯地に移動し、昼食をとった後、ヘリポートに展示してある戦車や火砲等装備品を見学し帰路についたが、普段接することの少ない自衛官や装備品と触れ合った参加者達からは「あのように大きな弾丸が、何キロも離れた場所に落ちるのはすごいと思った。」「国防についての理解を深めることができた。」「来年度も是非企画していただければ友人を誘って参加したい」等のコメントがあった。

更に富士総合火力演習当日にも学生等を引率して演習を案内し、募集対象者等の自衛隊の活動に対する理解と防衛意識の高揚を図るなど所望の成果を得ることができた。

東京地本は、来年度以降も安定的な募集基盤を確立させるため、引き続き特科教導隊をはじめ各部隊と連携を図りながら当該事業を継続・拡充させる予定である。

## すみだストリートジャズフェスティバルでの市街地広報活動

東京地本江東出張所は八月十八日（土）・十九日（日）の二日間、墨田区錦糸公園で実施された「第9回すみだストリートジャズフェスティバル」において、第一普通科連隊の支援を受け、広報活動を実施した。

当該イベントは錦糸町駅及び押上駅を中心に四十一箇所の会場で同時開催され、延約二十万人が来場する夏の大音楽イベントで様々なジャンルのアーティストが参加するとともに、東日本大震災の復興にも協力している。

江東出張所は幅広い年齢層の来訪者に自衛隊に対する親近感の醸成及び理解の促進を図ることを目的として、今年で5度目となる広報ブースを出展した。両日とも多数の家族連れなどが足を止めて、迷彩服等の試着や展示された1/2トラック及び偵察用オートバイの装備品との記念撮影、コルク銃による射的には長蛇の列が出来ていた。

写真を撮った親御さんからは「今日はとても良い記念になりました。ありがとうございます」と感謝の言葉と併せて、「自衛隊さん、これからも頑張ってください」との励ましの言葉をいただきました。参加した、隊員は更に広報活動への士気を高めていた。

東京地本江東出張所では今後も地域に密着した募集・広報活動を実施するとともに、関係部隊等とも連携を密にして、防衛省・自衛隊の活動に対する東京都民等の理解と関心を高め、自衛官募集活動の業務に繋げていくとしている。

